令和４年度　自己評価チェックシートまとめ

認定こども園松葉幼稚園

（評価）Ａ－しっかりしている　Ｂ－ややしている　Ｃ－まったくしていない

１６名回答

評価項目		内　　容	評価 A	評価 B	評価 C	評価 わからない	これからの課題だと思うこと	その具体的な例	課題を次に生かし、できる、やってみようと思うこと	その具体的な例
① 保育の計画性	園の理念、教育・保育要領、教育・保育課程	●園の建学の精神や理念、教育目標を理解している	9	7	0	0	・経験年齢の違いによる理解度の違い ・園の理念や教育目標をより深く理解する ・理解が浅いと沿えない	・教育と保育を別に捉える傾向がある ・日々の保育で考えたことを担任へきちんと伝える ・聞かれてもすぐに出てこない	・分かりきっている、でも言語化すること ・指示を待つだけでなく自分から働きかける ・理解した上での職員間での話し合い	・職員が話す（言語化する）機会を確保する ・計画的に話し合いの時間を確保し話し合いながら理解していく
		●教育要領を読み、園理念の理解とあわせて園長や保育者と話し合う	7	5	3	1				
		●指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程そして幼児の実態に即して作成し、周囲の状況や変化に対応できるものとしている	10	2	3	1				
	環境構成	●指導計画に基づいた安全で安心感、清潔感のある環境を構成する	5	10	1	0	・子どもが考えた遊びに必要な物、素材を用意すること　・遊びが広がるような環境を作ること　・保育室に仕切りが無い一生活と遊びを分けにくい ・同じ物にならないよう整えていく	・玩具、用具、素材を活かす為に、教材研究を行う ・古くなった物や危なくなった物はきちんと報告をする ・自分もやってみて子ども達にとってどういう環境が良いか確かめる ・支度をしている子が遊び始めてしまう	・教材の研究 ・子ども達が考えた遊びから予測しながら環境を整える ・パーテーションを置く ・支度が出来た子から遊戯室や戸外遊びに出る ・年齢、発達を意識した中でも環境構成に変化をつけ同じにならないようにする	・教材研究・指導案の作成（子どもの姿を予測し、必要な援助、環境を考えておく） ・遊んでいる子、支度をする子がそれぞれ集中して取り組める ・様々な素材、遊具、玩具を順番に用意し、変化をつけたり発展させられるように工夫していく
		●幼児が積極的に取り組んでみたくなるような働きかけをする	8	7	1	0				
		●幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具・玩具に配慮し、必要な数量を用意する	6	8	1	1				
		●幼児の発達を見通し、より豊かな活動が展開できるよう環境を再構成する	2	11	2	1				
		●園内外の自然への理解や、季節の変化に応じた環境の構成をする	7	7	1	1				
	評価・反省	●自己の保育についての評価・反省をさまざまな観点から行う	3	13	0	0	・自分の保育を客観的にみる ・じっくりと評価、反省に取り組む	・余欲を持ってじっくりと評価、反省していく	・公開保育を行い他の保育者と課題の把握をする ・自己評価を園全体に活かす	・公開保育 ・身近な担任、副担任に相談する ・一言でも共有できるシートを用意
		●自分の保育を評価・反省することで、園全体の保育に生かしている	1	13	2	0				
② 保育のあり方、幼児の対応	健康・安全	●日頃から園内の危険箇所に配慮する	10	6	0	0	・ヒヤリハットが少ない ・園児が怪我をせず過ごせるよう配慮 ・忙しいと視診が疎かになりがち、見落とさない	・指導監査により指導された ・園庭で遊ぶ際の職員の立ち位置、正しい遊具の使い方 ・報告、連絡、相談　・保育室、園からの飛び出し	・職員間への周知 ・指導する際に子どもがどうして危険なのか理由も考えられるようにしていく　・点呼、出欠確認、鍵の施錠	・周知をすでに行った ・安全確保、事故防止 ・危険箇所など共通意識
		●毎日の園児の出欠確認、健康視診を忘れずに行う	15	1	0	0				
		●事故や怪我が発生した場合は迅速に適切な処置を行う	13	3	0	0				
	幼児理解	●幼児一人ひとりをよく観察し、幼児の思いを受け止める	8	8	0	0	・一人ひとりをよく見て対応 ・支援が必要な幼児もクラスの中で個を発揮し一緒に過ごすこと	・意識して子どもの間を回る ・全ての学年の保育に参加し補助する	・クラスの先生と連携、協力 ・一人ひとりの良さを見つけ認めていく	・日誌を書く　・幼児の得意なことを発揮する場をつくる　・成長発達をふまえた上で、先を見通しながら関わる
		●幼児同士のかかわりの姿から、個々の成長発達をふまえ、見通しを持って理解する	4	12	0	0				
	指導	●幼児の思いや考えに共感し、受け入れる	11	5	0	0	・子どもの鏡となるような行動をする	・言葉遣い、行動など丁寧に		
		●規範意識・道徳性を培ううえで、モデルとなるよう心がける	6	9	1	0				
		●幼児の年齢・発達に応じた指導や援助、支援をする	7	9	0	0				

③ 保育者の資質・能力	姿勢 能力 義務 組織	●ふさわしい清潔感ある服装、髪型、身だしなみを心がける	11	5	0	0	・社会人としての行動、教養を深める　・問題の共有化　・保護者や子ども達に見られているという意識を持つ　・教職員間での意見交換の場に参加できる時間が少ない ・保育業務の進め方	・常識のある行動をとる。又、自ら学ぼうとする姿勢を持つ　・疑問が出てきた場合上司にきちんと聞く　・手書き業務で時間が取られる ・持ち帰り業務が多い（勤務時間に書類、製作準備が難しい）	・職員内で共有しよく話し合う　・ニュースを見たり、本を読む等して教養を深める ・身だしなみを整える ・課せられた業務を確実に行う　・時間の使い方を工夫　・デジタル化	・業務時短 ・自分から提案できるように工夫していく
		●職務上の情報等の秘密を守秘する	16	0	0	0				
		●社会人の常識をふまえ、行動する	12	4	0	0				
		●教職員組織の協調性を大切にし、チームとしての自覚を持つ	12	4	0	0				
		●率直な意見交換を行い、組織内の問題の共有化に努める	3	13	0	0				
		●当番や役割義務など、課せられた業務は確実に行う	10	6	0	0				
		●保育者としての感性・教養を深める	2	14	0	0				
④ 保護者への対応	対話・交流 クレーム対応	●保護者に幼児の様子を的確に伝える	7	9	0	0	・緊張の緩みにより、無自覚な言動があったと思う ・保護者対応時笑顔で丁寧な対応を心がけている ・保護者に言葉で伝えるだけでなく幼児の姿を見てもらいその上で相談や要望に応える ・日々の活動、遊びの内容を詳しく伝える ・保護者との信頼関係を築く	・不適切な保育と誤解される言動　・保育参観 ・ドキュメンテーション ・細かく子どもの様子を伝えたり、聞いたりし、会話しながら信頼関係を築いていく	・何気ない言葉でも十分気を付けて言葉を選ぶ ・日頃から幼児の姿を把握し、保護者と共有をする ・保育の様子の写真を撮り公開する ・日頃から言葉遣いに気を付ける ・特別な行事がなくとも子どもの姿を公開できる場を作る	・ブログ等に載せる ・写真などを公開する ・保護者の不信感解消 ・良い保育にも繋がる（情報共有）
		●保護者からの相談や要望をよく聞くように心がける	10	6	0	0				
		●保護者との対応には公平さを信条とし、保育時間外でも誇りと自覚を持った言動・行動を心がける	8	8	0	0				
		●電話での対応は、わかりやすく真摯な対応に努める	8	8	0	0				
		●保護者からの話しで、自分では判断できない場合は、園長・主任に報告、連絡、相談をする	15	1	0	0				
		●クレームの内容によっては教職員組織全体で共有化し、共通理解のうえで対処する	12	3	1	0				
⑤ 地域・自然・社会とのかかわり	地域・自然・人とのかかわり	●地域の自然や施設、行事等について理解し、利用する	4	10	2	0	・地域にも目を向ける ・仏教行事に理解を深めたい	・散歩ですれ違う人に挨拶出来ない子が多く見られる	・交流が持てる環境作り ・保育教諭が見本となるような挨拶をする	・あいさつ運動
		●地域の人々とあいさつや会話を交わし、親睦に心がける	11	4	1	0				
	小学校との連携	●小学校の教育内容について理解するよう努める	1	9	5	1	・年長組担任以外詳しくわからないこと ・小学校との連携に関心を持つ	・どのようなことを行っているか知る ・小学校教諭の訪問	・他クラスのことだと思わない ・小学校との交流に参加する	・広報誌などを見て知る ・卒園生、小学校に手紙を書いたり遊びに行く
		●地域の小学校行事や公開事業等に関心を持つ	0	10	5	1				
	子育て支援 地域への開放	●子育て支援や地域開放について、内容を理解する	2	11	3	0	・地域開放の方法について考える、調べる	・地域開放について職員間で話し合う ・年間を通じての活動を知る	・必要としている保護者に伝えること	
		●子育て支援や地域開放について、教職員全体で取り組む	2	9	5	0				

⑥ 研修と研究	研修・研究への意欲・態度	●研修会や研究会には自己課題をもって積極的に参加する	5	7	3	1	・研修に参加するのみになってしまっている ・自ら学ぼうとする姿勢を持つ ・自己課題を持つこと ・スキルアップ、自覚を持つ	・報告するものの自分の課題として共通認識できていない　・研修会への参加 ・機会があれば研修会に参加	・報告を聞き自分の課題として一人ひとりが意識づけできるようにする ・参加してみたい研修会を見つけ積極的に取り組む	・園内研修の課題として行う
		●自分の保育について自己課題をもって研究を行う	0	10	5	1				
		●自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	8	6	2	0				
	保育者としての専門性に関する研修・研究	●幼児の発達に必要な知識を学び、現場に行かす研修に参加したり研究を行う	6	4	5	1	・研修に参加しても情報共有する機会が少ない ・学んだことのアウトプットの仕方 ・出来ていない、理解していない課題を見つけ自らでも学ぼうとする ・研修で学んだことを実践すること、実践してどうだったかを園内で共有すること	・研修会に参加したり、自ら研究を行う	・職員間で共有、検討する場を設けること　・本を読んだりしながら研究を行う　・研修で得たことを実際にやってみる。評価、反省も行い、他の保育者にも伝える	・職員会議やレポートでの共有　・園内研修を行うなどして、職員間でも話し合いながら研究する　・職員会議等で発言する情報交換をする
		●記録の取り方、考察の仕方に関する研修に参加したり研究を行う	2	6	7	1				
		●教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修に参加したり研究を行う	3	7	5	1				
		●実践に基づいた評価方法と計画に関する研修に参加したり研究を行う	2	7	6	1				
		●幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修に参加したり研究を行う	4	7	4	1				
		●保護者への対応に関する研修に参加したり研究を行う	5	6	4	1				
		●組織内の協力・連携に関する研修に参加したり研究を行う	2	7	6	1				
	今日的課題に関する研修・研究	●アレルギー、成長の遅れ、問題のある幼児について理解する	10	6	0	0	・専門研修に参加する場が少なくなっている　・課題に関心を持つ ・成長発達等の勉強をしたい ・子育て、家庭内での悩みをいつでも受け入れる場の提供 ・就学に向けて、家庭、保護者、子ども達の困りごとへのアプローチ	・自ら調べて学んでみる ・先輩のアドバイスを聞く	・学んだことを話し合う ・保護者、子どもが離しやすい雰囲気をつくる ・必要に応じて関係機関と連絡、連携し、サポートする体制をつくる	・園内研修として行う
		●預かり保育や子育て支援について研修する	2	8	5	1				
		●幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	1	7	7	1				
		●子どたちの安心・安全に関する、危機管理の必要性と対応について研修する	5	9	1	1				
		●社会情勢について関心をもち、研修する	0	9	6	1				